

学習内容と到達目標

- ☞ 自分が住みたい部屋の条件について話すことができるようになる。(ゴミを出す日など) 住居の規則について尋ねることができるようになる。

指導のポイント

1. INTRODUCTION 第10課の復習。ステップ2での学習内容が定着しているか十分に確認した上で先に進む。①で位置関係を表す表現がすぐに出てこなかったり、②で質問にすぐに答えられなかった時、「～は～にあります (います)」と「～に～があります (います)」を適切に使分けられなかった時は、第10課の入念な復習が必要。

2. VOCABULARY 自分が住みたい部屋の条件について話すために必要な語彙の学習。「◎」か「○」を付けたものについては、9課で学習した「～が 좋습니다」と合わせて、「大学から近い部屋が 좋습니다」のように練習しておく、会話の練習がスムーズに進む。意欲的な学習者には「大学から近くて、家賃が安い部屋が 좋습니다」のような表現にチャレンジさせてみるのもよい。

3. LISTENING ①は「○/×」で4つの規則以外は難なく聞き取れるはず。解答が終わったら、リーさんが最初に古田さんに話した条件は何だったかや、その後どんな点について妥協したかについても質問する。②では女子寮の4つの規則について話す時、リーさんと管理人さんがどんな表現を使って会話しているか(=「～てもいいですか」「～ないでください」)に注意を向けさせる。

4. FOCUS ②では辞書形やテ形と同様、ナイ形の作り方を学習者自身に考えさせるようにする。⑥では、「イ形/否定形+くてもいい」「ナ形/名詞+でもいい」という2つの表現が「動詞+でもいい」のような許可を求める表現ではなく、「妥協」を表す表現であることを理解させる。文末の「いい」に引きずられて、「大学から近い部屋がいい」と表現すべきところを「大学から近くてもいい」と言ってしまう学習者もいるので注意。

5. LISTENING ①では「大切じゃない」条件について話す時、「少し古くてきたなくてもいい」(選択肢は「f. 新しくてきれい」)や「大学から少し遠くてもいい」(選択肢は「a. 大学から近い」)のように、反対の意味を表す形容詞が使われているので注意。学習者が混乱しそうだったら、反意語を確認した上で聞くようにする。②は[3. LISTENING]の①と同様、難なく聞きとれるはず。③はCDを聞く前に12枚の絵がそれぞれ何を意味するのかを確認しておく。

6. PAIR WORK 4つのマンションの地名(Student Bに明記)は全て福岡市の地名なので、地名の聞き取りが難しければ(あるいは、より現実感を持たせたければ)、学習者と関連のある地名に変えて練習するようにする。

活動例

① 不動産屋のHPで条件に合ったアパートを見つける

- ☞ 第5課で活用した外国人向けの観光案内図（できれば、市の郊外まで描かれた大きなもの）を使う。まず自分が住みたい町の条件（例えば「静か」「学校から近い」「地下鉄1本で繁華街に出られる」など）を述べさせ、その条件にあったエリアを2つか、3つに絞り込ませる。そして、Yahoo!サービスの中にある「地図」（<http://map.yahoo.co.jp/>）などを使い、そのエリアの生活環境を調べさせる（近くに公園や図書館はあるか、コンビニやスーパーはあるかなど）。おおよそ把握できたら、不動産屋のHPにアクセスし、自分の希望（「駅から徒歩5分以内で、家賃は4万円以下」など）に合う物件を探させる。見つからなければ、エリアを変えて、再度探させる。

プチ情報：福岡市の人気エリア

高級住宅地として人気なのは大濠公園、百道（ももち）、マリナタウン、桜坂、平尾など。また、一人暮らしの若い人たちに人気の町としては大名や薬院などがある。

授業で使えるリソース

- ☞ The Japan Times 発行の『24 Tasks for Basic Modern Japanese』vol.2（14課）に、「アパート探し」という [3.LISTENING] の会話の内容とよく似たインフォメーション・ギャップ・タスクがある。上記の活動①では「～でもいい」や「～ないでください」が使えないので、時間があれば、このタスクで補充するとよい。

